各水試発トピックス

全国豊かな海づくり大会１年前プレイベントに参加

各都道府県が毎年持ち回りで開催する「全国豊かな海づくり大会」は全国植樹祭・国民体育大会とあわせて「三大行幸啓」と称され、天皇・皇后両陛下が国民と触れ合われる大切な機会となっています。本大会は水産資源の保護や海・河川の環境保全の大切さなどを広く国民に訴えるとともに、つくり育てる漁業の推進を通じて水産業の振興と発展を図ることを目的に行われます。

令和５年９月17日（日）に厚岸町で第42回大会が開催される予定となっており、その中で開催自治体における栽培漁業を代表する魚種の稚仔を放流することとなっています。水産研究本部ではその魚種の一つとして選定されたホッカイエビの種苗生産を行い、現地に輸送する業務を担います。

令和４年10月２日（日）に、本大会の開催趣旨の浸透、機運醸成、期待感の高揚などを図ることを目的として、１年前プレイベントが開催され、現地で式典行事、海上歓迎行事に加えてマツカワ・ホッカイエビの種苗放流も行われました。

栽培水産試験場では令和４年５月に抱卵したホッカイエビの親を搬入し、産まれた稚エビを大切に育成してきました。プレイベントの２日前には、全長４～５cmに育った約5,000尾を室蘭から厚岸まで輸送し、当日の放流に備えました。

プレイベントでは北海道知事をはじめ、厚岸町民を含めて約250名が参加しましたが、ホッカイエビの種苗も無事に多くの方々によって放流されました。プレイベントに参加したことで本大会の開催に向けての種苗生産や輸送、放流にかかるノウハウが蓄積されました。

（三坂尚行　水産研究本部企画調整部）

写真１　ホッカイエビ種苗の配付作業をする栽培水産試験場職員

写真２　ホッカイエビ種苗を放流する木村水産研究本部長

各水試発トピックス

新規職員採用研修、インターンシップを実施しました

令和４年９月13日（火）から９月15（木）（インターンシップは９月13日の１日間）にかけて、中央水産試験場及びさけます・内水面水産試験場において、新規職員採用研修（他分野体験、交流研修）、インターンシップを実施しました。

新規採用職員研修（他分野体験、交流研修）は研修生の他分野への関心を醸成するとともに他の研修参加者や受入先担当者等との強い関係づくりを促進し、総合力を生かした研究・支援業務を担える人材の育成につなげることを目的に、また、インターンシップは、道総研の概要や研究内容、やりがい等を早期に学生に知ってもらい採用に繋げる取組として実施しました。

新規採用職員研修（他分野体験、交流研修）には、農業研究本部から４名、産業技術研究本部から１名、建築研究本部から１名の計６名が、インターンシップには、大学生及び大学院生計７名が参加しました。

１日目は中央水産試験場で、午前は、魚体の測定、耳石による年齢査定などを通して年齢と成長との関係や適切な資源の管理を、午後からは、新規採用職員研修（他分野、交流研修）では、ニシンを題材に成熟度の調査、系群判別のための脊椎骨数の計測を、インターンシップでは回流水槽を用いたニシン稚魚の遊泳力の測定などを実施しました。２日目は中央水産試験場で1950年代に北海道立中央水産試験場が発明した「冷凍すり身」の技術などについて、揚げかまぼこ製造実習を通じて理解を深めました。３日目は、さけます・内水面水産試験場で、午前にサケの鱗を採取して年齢査定を行うとともに、来遊数との関係を学習し、午後からはサクラマスの採卵、授精を実際に行ったほか、北海道の養殖サーモンについて水産試験場の若手職員を含めたグループディスカッションを行うなど、水産に対する理解を深めました。

研修生からは、「全てのプログラムで実習があり、単調な研修にならず、内容も理解しやすかった。」、「使用している設備、機器も参考になる部分が多かった。」という意見や、「他分野の方々が日々どのような研究・業務を行っているのか、実際に体験できたのは貴重であった。」などといった意見があり、充実した研修となりました。

（加藤健司　水産研究本部企画調整部）

写真　カレイの魚体測定と鱗採取

各水試発トピックス

鈴木仁元機関長が瑞宝単光章を受章されました

令和４年11月３日に令和４年秋の叙勲が発令され、水産試験場の試験調査船に長年勤務いただいた鈴木仁さんが瑞宝単光章を受章され、鈴木直道北海道知事から勲章・勲記が授与されました。

鈴木さんは昭和57年４月に北海道職員に採用され、北辰丸（釧路水産試験場所属試験調査船）、北洋丸（稚内水産試験場所属試験調査船）、おやしお丸（中央水産試験場所属試験調査船）の勤務を経て、平成28年には北辰丸、平成29年には北洋丸、さらには、令和２年から再び北辰丸の機関長として勤務し若い船員たちの指導にあたるなど、令和４年３月の退職まで40年の長きにわたり試験調査船の運行・調査業務に従事されてきました。

鈴木さんが採用された昭和57年当時は、国際的な200海里時代を迎えており、時代に即した試験研究への対応として、我が国周辺の漁業資源を評価するためのスケトウダラの卵稚仔分布調査に従事されたほか、北辰丸の代船建造の際には同船の一等機関士として、また北洋丸の代船建造の際には同船の機関長として、機関部の設計及び建造の中心的な役割を果たし、試験調査船の安全な運航を通じ、水産試験場の柱の一つである資源管理型漁業の推進に大いに貢献されるなど、気象・海象条件が極めて厳しい北海道周辺海域において、豊富な知識と経験を活かし、船の心臓部となる機関の保守管理を昼夜問わず的確に遂行されてきました。

機関長として船長を補佐するとともに、乗組員の良き相談相手として後輩船員の指導、育成など、日々、船員同士の人間関係の融和にも努力し、試験調査船の安全な航行に尽力されました。

鈴木さんが残されたこれらの功績が、北海道の自治への多大な貢献であると認められ、今回の受章に至りました。長年にわたり調査船による調査の推進と安全運航に尽力された鈴木さんの受章を、心よりお祝い申し上げます。

（加藤健司　水産研究本部企画調整部）

鈴木知事から勲章及び勲記の授与されました

伝達式出席者の記念写真
（鈴木さん：一番右端）